病診連携NEWS
公益社団法人日本海員掖済会（えきさいかい）
名古屋掖済会病院
2023.1
医療連携室
052-652-7954

新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

2020年に発生した新型コロナウイルス感染は3年経過し、現在は第8波の中ですが、当院は重点医療機関として多くの患者さんを受入てきました。感染発生初期に比べると、ワクチン接種や治療薬の開発などで重症例は減少しました。しかし院内クラスター発生や職員の感染、濃厚接触者指定などにより業務に影響がでる中、通常医療とコロナ医療を両立する、という当初の方針を職員一同継続しています。

院内の歓迎会や送別会、エキサイ祭りなどは中止して3年となり、職員間の親睦を図る機会は無くなりましたが、講演会や研究会などは感染対策を施し対面参加人数を制限してのハイブリッド方式で継続しています。医療の質を保つため必要な行為と考えています。

コロナ禍でも、昨年は明るい話題もありました。当院の大きな柱である救急医療で、名古屋市消防局司令のもと一刻も早く現場に到着し、少しでも助かる命を救命したいという思いから自家用救急車を導入することにしました。この自家用救急車は特殊車両で装備品を含めるとかなりの高額になります。そのため2021年春、地域の皆様にクラウドファンディングによる寄付をお願いしたところ、予想を超える多額の寄付を頂き、今年の5月頃納車の見込みとなりました。改めて地域の皆様に感謝すると共に、皆様に期待されているという当院の責任を再認識しています。

当院は1948年11月にこの地に開院しました。以後、名古屋市南西部の基幹病院として高度急性期医療と救急医療に取り組んでいますが、今年は開院75年となります。そこで今年の10月28日（土曜日）に創立75周年の記念式典を催すことにしました。現在、準備委員会が作業をおこなっております。

入院棟は2016年12月に新しく立て替えましたが、現在の外来棟は1984年の建設で今後新しい棟に建て替えることが必要となります。そのため、2022年11月に新外来棟建設構想委員会をスタートしました。2030年までに完成することを目標に建設準備に取り組んでいます。皆さんの声を反映してこれからの医療に応えられる新外来棟が完成することを期待します。このコロナ禍で、社会活動はまだ完全に戻っていない状況ですが、必ず終息する日がきます。今後も地域の皆さんに信頼され、安全で最新の医療提供し、患者さんに選ばれる病院として、この地域の基幹病院としての活動を続けます。今年が皆様、また病院にとって良い年になる事を願って年頭の挨拶とします。

令和5年1月

病院長　河野　弘

2023.1

病診連携 NEWS

公益社団法人日本海員掖済会
名古屋掖済会病院

外来感染対策向上加算

松本ファミリークリニック訪問

今回、感染対策室と医療連携室スタッフにて、松本ファミリークリニックに訪問させていただきました。訪問時には、クリニックでの抗菌薬処方に関するお話や、スタッフの方にN95マスクフィットテストを実施させていただきました。

新型コロナウイルス感染症の流行で、N95マスクは世界的に脚光を浴びたのではないでしょうか。私たちにとっては、N95マスクという方が馴染みありますが、『N95レスピレーター』というのが正式な呼び方です。N95とはNIOSH（アメリカ合衆国国立労働安全衛生研究所）によるフィルターの性能を評価した規格で、Nはnot resistant to oil（耐油性がない）95は捕集しにくいサイズの塩化ナトリウム（空気力学的質量径が0.3μm付近）を95％以上捕集することを指しています。つまり、フィルターの性能についての規格であり、使用者の顔にフィットするかしないかは考慮されていません。

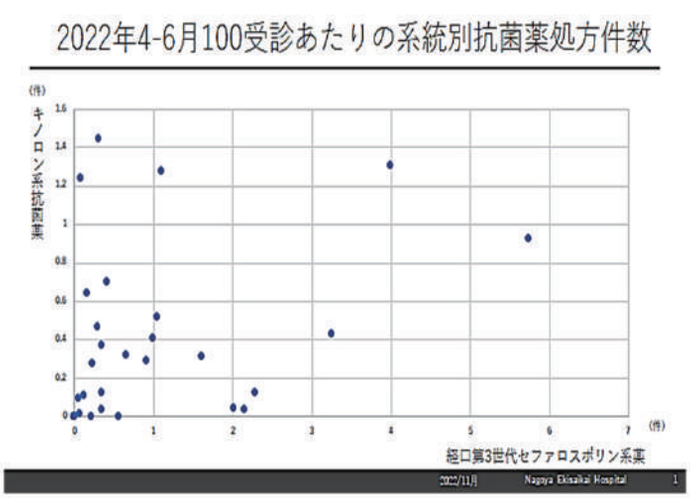
N95 フィットテスト

呼吸器感染する病原体は、咳・くしゃみや気道の吸引などにより飛散し、他人の気道粘膜に付着することで感染が成立します。従って、感染対策を考える際には、粒子の大きさに応じて、空気感染予防策か飛沫感染予防策を理解して防護具を選択することが、重要になります。特にエアロゾルが発生しやすい気道吸引、気管内挿管、抜管、用手換気、気管切開やチューブ交換、歯科口腔処置、非侵襲的換気、ネーザルハイフロー、下気道検体採取、吸引を伴う上部消化管内視鏡などでN95マスクが推奨されます。

先生方のご施設では、職員の方が顔にフィットしたN95マスクで検体採取などをしていますでしょうか？当院では柴田科学より販売の、労研式マスクフィッティングテスターMT-05Uを購入しました。新型コロナ専用病棟のスタッフは、自分の顔に合ったマスクを使用し勤務をしています。

先生方のご施設でも、ご要望がございましたらN95マスクのフィッテングを行うためにお伺いする事ができます。

今年度は、感染症発生、抗菌薬使用状況の報告（年4回）や新興感染症等訓練、カンファレンスなど多くの活動があり大変お手間をおかけしています。55施設という多くの先生方と連携させていただけましたので、抗菌薬の使用状況などいろいろな情報を共有し、施設間での違いが大きいことを知る機会となりました。（左図）今後も、実りある連携活動ができることを目指して参りたいと思います。



抗菌薬使用状況調査より